

多い学校の危機管理

今回は学校（小・中・高等学校）の危機管理についてお話しします。

新型コロナウイルス感染症の流行が始まったとき、「危機の時は、常に最悪を想定して準備・対応をしないさい。大抵の場合、それよりはるか手前で収束（終息）する」という言葉を思い出しました。私は、この「はるか手前」という言葉が好きです。学校の先生方も、危機を「はるか手前」で収束（終息）させるため、日頃から多くの危機管理を抱えて仕事をしています。

埼玉県立大学教授 高橋 宏至



<42>

デジタル大辞林では「危機」とは「悪い結果が予想される危険な時・状況。あやうい状態」と定義されています。つまり危機とはあらかじめ予想される悪い結果や今後、悪い方向に行くであろう状況や状

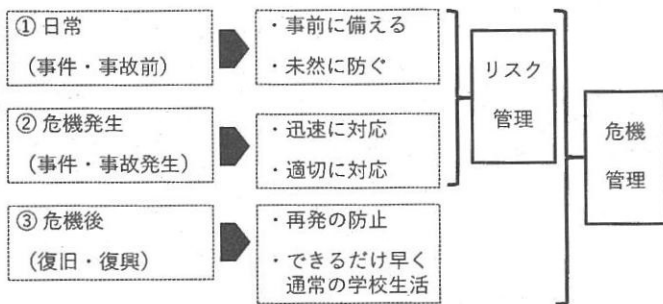


図 リスク管理と危機管理 (2020 高橋作成)

態のことをいい、できればすべての人が避けたいことです。学校における危機管理とは「不測の事態に迅速・的確に対応できるように、事前に準備しておくこと」と理解されていますが、実は危機管理には図のとおり①「事件・事故を未然に防ぐこと」②「事件・事故が発生したとき、適切か

感染症やアレルギー対応も

迅速に対応すること」③「危機の再発を防止し、できるだけ早期に通常の学校生活に戻すこと」の3点があり、①②はリスク管理とも言われます。

では、学校では具体的にどのような危機が想定されるのでしょうか。例えば、学校施設に起因する事故、個人情報の漏えい、感染症やアレルギー対応、自殺予告、いじめ、体罰事件、不審者被害、IT機器への依存、登下校中の交通事故、地震や洪水など、学校生活から自然災害までさまざまなものがあります。このように、学校が想定する危機管理は想像よりも多岐にわたっていることが分かります。

この中には、ご家庭の危機管理に共通するものもあるでしょう。危機管理の3つの段階や想定される危機は、学校の先生だけでなく、それぞれのご家庭でも考えていかなければいけません。日々の先生方の健康・安全への配慮と職責の遂行に敬意を示しながら、学校やご家庭での危機管理について、理解を深めていきましょう。